

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p style="text-align: center;">Devotion Guide/ユースマナ</p> <h1 style="text-align: center;">Youth Manna</h1> <p>マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。</p> | <p style="text-align: right;">2022/5/30(月)</p> <h2 style="text-align: center;">エズラ10:18-44</h2> <p>エズラ記の最後は、律法に違反した(異邦人と姻戚関係を結んだ)多数のイスラエル人の名のリストで締めくくられる。あんなに帰還の喜びを味わったはずの民がなぜ?そしてこの人数は氷山の一角か。ここから、人間の罪がいかに根深いものか、考えさせられる。でも、私たちにはイエス様の十字架があることを同時に覚えよう。 『律法が入って来たのは、違反が増し加わるためでした。しかし、罪の増し加わるところに、恵みも満ち溢れました。それは、罪が死によって支配したように、恵みもまた義によって支配して、私達の主イエス・キリストにより永遠のいのちに導くためなのです』(ローマ5:20) 私たちに今罪があるのは、イエス様の十字架の死と復活により私たちが傷もしみもない者として整えられるステップ(エペソ1:4)なんだよ!だから、恥ずかしがらずに自分の罪、問題を教会の友達に話してみよう。</p> | <p style="text-align: right;">2022/5/31(火)</p> <h2 style="text-align: center;">詩篇122篇</h2> <p>詩人は1節で「さあ主の家に行こう」と誘われた時「私は喜んだ」と告白している。エルサレムが礼拝の場所だからだ。彼は心から教会を愛している。あなたにとって礼拝やユースはどんな存在かな? コロナで集まり方が変わった。そのために教会やユースでなかなか会えなくなったと思う友達はいないかな? 「礼拝に行こうよ」「ユースで会おうよ」「元気?祈っているよ」の声かけがその人の霊を元気にする。久しぶりの人にLINEなどで連絡してみてもどうだろうか?</p> | <p style="text-align: right;">2022/6/1(水)</p> <h2 style="text-align: center;">ネヘミヤ1章</h2> <p>ネヘミヤは、エズラと同様に、捕囚後のペルシア帝国時代の人である。ネヘミヤはペルシア王の献酌官であったが、そのときに祖国の状況が知らされた。生き残ったユダヤ人たちは大きな困難と恥辱を味わい、エルサレム城壁は崩壊したままだと知り(3)、ネヘミヤは嘆き悲しみ、神に祈った(4-11)。ネヘミヤは、イスラエルが神の命令に背いた罪を自分のこととして告白した。エルサレムの悲惨な状況は、ネヘミヤの代にまで続く、イスラエルの罪に対する神の答えであった。 日本の救いのために、思わされることを祈ろう!</p> |
| <p style="text-align: right;">2022/6/2(木)</p> <h2 style="text-align: center;">ネヘミヤ2章</h2> <p>ネヘミヤは4ヶ月祈っていた。そんな時、献酌官(毒見役)であるにも関わらず王の前で沈んだ表情を浮かべるネヘミヤに対して、どうしたのか?と王は気遣った。そこでネヘミヤは先祖の墓がある都が廃墟となっていることを告げ、またその場で祈り、王に再建させてもらえないかと願った。これは王の方針とは違い危険な行為でもあるが、王はそれを承諾した。信頼があったからこそというもあるだろうが、やはりそこに神様が働かれたからなのだろう。 これは単にちよっとしたことではなく、国の資金、資材、人員を割くことを王が認めたのだから、とてつもないことが起こっている。 ・あなたは何を切に神様に願っているだろうか。 ・自分のためではなく、先に神様を選ばれた人として何ができるだろうか。</p> | <p style="text-align: right;">2022/6/3(金)</p> <h2 style="text-align: center;">ネヘミヤ3:1-14</h2> <p>▶城壁の修復工事が始まった。一人ひとりの名前が紹介されることで、民が一つとなって再建に取り組んでいるようにみえる。 ▶1節にでてきた大祭司エルヤシブは、再建をバカにしたトビヤ(2:19)と非常に仲が良く、神の宮をなおざりにするような行動をとる(13章)。またエルヤシブの孫は、トビヤと同じく再建をバカにしたサンバラテ(2:19)の娘と結婚した(13章)。エルヤシブの心は、嘆き悲しみ主に祈ったネヘミヤの心と共にあったのだろうか?トビヤとサンバラテは今後も登場するので、覚えておくと良い。 ▶ネヘミヤのように嘆き悲しみ主に祈り、行動を起こすひとが周りにいたとき、私たちは共に行動できるだろうか。心一つにできるだろうか…。さて、来週の火曜日にはリバイバル祈り会がある。</p> | <p style="text-align: right;">2022/6/4(土)</p> <h2 style="text-align: center;">ネヘミヤ3:15-32</h2> <p>今日も昨日に続いて、修復作業をしている人がたくさん出てくるね。本当に多くの人が修復作業をしていて、中には「熱心に」とわざわざ聖書に書かれている人もいる。神様は1人1人の奉仕などもよく見て、よく知ってください。今日も主の前に出て神様が君と何をしたいのか、神様の心に目を向けよう!与えられたものなどを喜んで受け取るう!</p> | <p style="text-align: right;">2022/6/5(日)</p> <h2 style="text-align: center;">使徒2:1-21</h2> <p>今日はペンテコステ。天に昇って行ったイエス様が約束されたとおりに過越の祭りから50日目に弟子たちに聖霊が臨まれた。13節で「新しいぶどう酒に酔っている」ということばを受けてペテロは、預言者ヨエルのことばを引用して、神様の約束が実現したと語った。ヨエル書2章28-32節を開いて確認しよう! ペテロは神様がすべての人に聖霊を注がれるということの人々に語った。旧約聖書の時代に神様は一部の人々に霊を与えたが「終わりの日」にはそうではない。「すべての人に」とは、イエス様が弟子たちにお語りになったことばと重ねるなら、イエス様を神様と信じる者のすべてに、ということ。そこには大人も子ども、老人も青年も、男も女も含まれている。イエス様は天に昇られる直前、聖霊が弟子たちに臨み、彼らは力を受けると言われた。でも、聖霊が注がれることが最終目的ではない。「わたしの証人となる」とイエス様が語られたようにペテロたちはすごい数の群衆の前に、ナザレ人のイエス様こそ救い主であり、イエス様を信じる者はみな救われることを力強く語っている。数十日前にイエス様を見捨てて逃げてしまった弟子たちが、大勢の人々の前で大胆に正しく福音を伝えているのは、聖霊のみわざ。今日の聖書箇所を覚えて日々生活しよう!</p> |